

例えば、ドイツ語の動詞 **tun** が助動詞として用いられる例を見てみよう。いわゆる標準的なドイツ語では、**tun** は助動詞として用いない。しかし、(1a) から (1c) の例では、それぞれ **tun** が助動詞として用いられている。これらの例を見て、(1a) は文脈とイントネーションが整えば容認できるとする母語話者がいる。<sup>1)</sup>他方、(1b) や (1c) は方言であるとする母語話者もいて、それらの話者の中には、これらが標準的なドイツ語では容認できないと主張する。

- (1) a. Rauchen tu ich schon seit einem Jahr nicht mehr.  
b. Das täte mich schon interessieren.  
c. Wir tun lieber Leute retten, als Ihnen beim Frieren zuzusehen.  
Quelle:Insight by languagetool.org (n. d.)

---

1) 例えば、Rauchen と nicht mehr に文アクセントを置く。Schwitalla (2006: 131) を参照。